

## 英国現代奴隷法にかかる声明

東レグループは、英国現代奴隷法第 54 条の定めに基づき、自社事業およびサプライチェーンにおける奴隷労働・人身売買を防止するために 2024 年度に行った取り組みについて記載した本声明を公表します。

### 1. 東レグループの組織・事業内容、サプライチェーン

東レグループは、繊維、機能化成品、炭素繊維複合材料、環境・エンジニアリング、ライフサイエンスなどの事業をグローバルに展開しています。2025 年 3 月 31 日時点で、関係会社数は 308 社（国内 113 社、海外 195 社）であり、従業員数は 47,914 人（国内 17,462 人、海外 30,452 人）です。

東レグループの組織および事業の詳細については、以下のリンクより東レ株式会社ウェブサイトをご覧ください。

【東レ株式会社ウェブサイト】

<https://www.toray.co.jp/>

東レグループのサプライチェーンは、世界のさまざまな国や地域に広がっています。2024 年度の事業拠点別の購買構成比率は、日本が 42%、アジアが 39%、欧州が 6%、米州が 13%となっています。また、事業分野別の購買構成比率は、繊維が 31%、樹脂・ケミカルが 23%、フィルムが 16%、複材が 12%、その他が 18%です。

サプライヤーの業種は、総合商社・専門商社をはじめ、世界各国の石油化学品・燃料・薬品、成形品、梱包資材、工作機械、精密装置、機械部品、材料加工メーカーなど多岐にわたります。購買環境・要求仕様など条件に合わせ、定常的・スポット的取引双方が存在します。世界各国に拠点を持つ約 4,200 社の一次サプライヤーから、幅広く購買しています。

【CSR 調達活動】

[https://www.toray.co.jp/sustainability/activity/supply\\_chain/procurement.html](https://www.toray.co.jp/sustainability/activity/supply_chain/procurement.html)

### 2. 奴隷労働・人身売買防止に関する東レグループの方針

#### (1) 東レ理念

東レグループは、東レ株式会社が 1926 年に創業して以来、「企業は社会の公器であり、その事業を通じて社会に貢献する」との経営思想の下、社会から尊敬される企業体として存在することを目指してきました。企業理念「わたしたちは新しい価値の創造を通じて社会に貢献します」をはじめとする当社を支える経営思想は「東レ理念」として体系化されています。

【東レ理念】

<https://www.toray.co.jp/aboutus/philosophy.html>

「東レ理念」における「企業行動指針」では、社会的規範の遵守はもとより、高い倫理観と強い責任感をもって公正に行動し社会の信頼と期待に応える「倫理と公正」、良き企業市民として人権尊重の責任を果たす「人権尊重」などを謳っており、それぞれに関し、「倫理・コンプライアンス行動規範」「東レグループ人権方針」を定めています。

#### A. 倫理・コンプライアンス行動規範

東レグループは、すべてのステークホルダーと良好な関係を築きながら企業活動を行うために、「人権の尊重」は欠くことのできない企業経営の基本であると考えています。この考えのもと、「倫理・コンプライアンス行動規範」には、人権に関するコンプライアンスとして、「社員の人格・個性の尊重」「ハラスメント・差別の防止」「すべてのステークホルダーの人権尊重」を行動規範として定め、東レグループのすべての役員・社員が守るべき重要なルールとしています。

【倫理・コンプライアンス行動規範】

<https://www.toray.co.jp/sustainability/activity/compliance/culture.html>

#### B. 東レグループ人権方針

東レグループは、人権尊重の姿勢をより明確にするため、「東レグループ人権方針」を制定し、その中で、国連世界人権宣言やILO条約、ビジネスと人権に関する指導原則などの国際規範を尊重し、良き企業市民として人権尊重の責任を果たすよう努力することを宣言するとともに、児童労働・強制労働・不当な低賃金労働を行わないこと、事業に関わるサプライチェーン全体を通じて人権尊重の推進に努め、人権侵害への加担をしないことなどを表明しています。

【東レグループ人権方針】

<https://www.toray.co.jp/sustainability/activity/personnel/index.html>

### (2) 東レグループのCSR方針

東レグループは、事業を通じた社会的課題解決への貢献を進める経営戦略とCSRを一体的に推進し、企業理念を具現化しています。CSR推進に関しては、「CSRガイドライン」「東レグループCSR調達方針」を定めています。

#### A. CSRガイドライン

東レグループは、「人権推進と人材育成」「持続可能なサプライチェーンの構築」という項目を含めた「CSRガイドライン」に沿ってCSRの中期計画である「CSRロードマップ」を策定し、計画的にCSR活動を進めています。

【CSRガイドライン】

<https://www.toray.co.jp/sustainability/activity/index.html>

【CSR ロードマップ 2025】

[https://www.toray.co.jp/sustainability/stance/pdf/csrroadmap\\_2025.pdf](https://www.toray.co.jp/sustainability/stance/pdf/csrroadmap_2025.pdf)

## B. 東レグループ CSR 調達方針

東レグループは、「サプライチェーン一体となって取り組むべき課題」として CSR 調達に取り組んでおり、人権に配慮したサプライチェーンの構築を「東レグループ CSR 調達方針」において宣言しています。また、具体的かつ詳細な行動指針として「東レグループ CSR 調達行動指針」を定め、人権の尊重や強制労働・奴隷労働・児童労働・不当な低賃金労働の禁止などについて、サプライヤーに遵守を求めています。

【東レグループ CSR 調達方針】

【東レグループ CSR 調達行動指針】

[https://www.toray.co.jp/sustainability/activity/supply\\_chain/index.html](https://www.toray.co.jp/sustainability/activity/supply_chain/index.html)

## 3. 奴隷労働・人身売買の防止に向けたリスクの評価と管理、デューデリジェンス

### (1) 東レグループにおける人権リスクの把握・予防

東レグループでは、東レ株式会社社長を委員長とする「倫理・コンプライアンス委員会」の下部組織として「国内人権推進委員会」と「海外人権推進委員会」を設置しています。両委員会における人権推進活動を東レ株式会社の各事業場・工場および国内外の各関係会社まで展開することで、東レグループのすべての職場が明るく働きやすい環境となるよう努めています。

また、東レ株式会社は、年1回、各事業場・工場および主要関係会社を対象として、啓発・教育を含む人権推進活動に関する調査を実施しています。当該調査結果は、国内人権推進委員会、海外人権推進委員会などで報告され、児童労働、強制労働、不当な低賃金労働などを含む人権に関する課題や問題点、懸念点などを抽出した上で、その改善に向け、取り組みを検討、実施しています。

### (2) 東レグループにおける人権尊重を含めた CSR 調達活動の推進

東レグループは、国内・海外関係会社を含めたグループ全体でサプライチェーンにおける CSR の推進の強化を図っています。具体的には、「CSR 調達ワーキンググループ」を東レ株式会社内に設置し、サプライヤーの CSR への取り組み状況の把握や、関係会社での CSR 調達の推進の支援などを行うとともに、グループ全体のリスクマネジメントを統括する「リスクマネジメント委員会」において、グループ全体の CSR 調達の推進状況とリスク低減活動に関する報告を定期的に行い、情報を共有し、必要な対応を審議しています。

また、主要なサプライヤーに対する CSR 調達アンケートの定期的な実施・評価などを通じてサプライチェーン上の人権リスクを把握しています。問題を把握した場合は、サプライヤーに対して改善要請を行い、訪問などを通じて定期的にフォローアップを実施し、結果をウェブサイトで開示するなど、経済協力開発機構（OECD）の「責任ある企業行動のための OECD デュー・デリジェンス・ガイダンス」に定められたプロセスに則り、サプライヤーと協働して人権尊重を推進する取り組みを進めています。

東レ株式会社は、原則 2 年ごとに、主要なサプライヤーに対して CSR 調達アンケートを実施し、人権問題への対応を含む CSR への取り組み状況を網羅的に確認しています。2024 年度に実施したアンケートでは、回答が得られた 451 社に関して、東レ株式会社が求める水準を満たしていると評価した割合は 99% でした。求める水準に達していないサプライヤー 6 社に対しては、2025 年度に個別訪問・面談を実施し、実態確認や是正・改善のための協議やサポートを行います。求める水準を満たしている取引先であっても、負の影響のリスクが懸念される業種の取引先に対しては、CSR 調達ワーキンググループが順次訪問監査を計画・実施しており、2024 年度は 4 社に対して監査を実施しました。監査実施後は、監査報告書とともにフォローアップシートをサプライヤーに提示し、改善を要請します。その後は、フォローアップシートに沿って、随時改善状況を確認しています。また、2022 年度から 2024 年度までの 3 年間で主要サプライヤー合計 539 社に対して「東レグループ CSR 調達行動指針」を提示して理解と遵守を求めるとともに、同意いただける旨の同意確認書を入手・確認する取り組みを進めてきました。その結果、2025 年 3 月末までに 446 社から同意確認書を入手しました。サプライチェーン全体での CSR 推進をより一層強化するように努めています。

国内関係会社では、各社で CSR 調達を推進するための社内体制やルールの整備、サプライヤーに対する CSR 調達アンケートの実施などの取り組みを継続的に進めています。2024 年度は、主要サプライヤーに対して CSR 調達アンケートを実施し、129 社から回答を得ました。アンケートを通じて各サプライヤーの CSR 推進状況を確認するとともに、アンケートの評価結果を各サプライヤーにフィードバックし、実態調査が必要と判断したサプライヤーに対しては、各社が実態調査・改善要請を進めています。また、各社から主要サプライヤーに対して「東レグループ CSR 調達行動指針」を提示し理解と遵守を求めており、2022 年度から 2024 年度までの 3 年間で合計 1,553 社に提示し、今後取引の見込みがない 57 社を除き、2025 年 3 月末までに合計で 1,414 社から当該行動指針に同意いただける旨の同意確認書を入手しました。

海外関係会社においても、各社が主要なサプライヤーに対して「東レグループ CSR 調達行動指針」を提示し理解と遵守を求めており、2022 年度から 2024 年度までの 3 年間で合計 2,341 社に提示し、今後取引の見込みがない 121 社を除き、2025 年 3 月末までに合計で 1,779 社から当該行動指針に同意いただける旨の同意確認書を入手しました。

さらに、東レグループ内の人権問題について、すべての社員が通報・相談できる体制（「企業倫理・法令遵守ヘルプライン」など）を構築し、リスクの拡大防止や問題の早期発見などに努めています。通報・相談受付後は、受付窓口と調査担当部署が連携し、通報・相談者に不利益が生じないように、細心の注意を払って事実関係を調査し、問題の是正が必要な場合には当該事案の関係部署に是正指導を実施するなど、迅速かつ適切に対処しています。東レグループのサプライチェーン上の人権問題についても、誰もが利用できる通報・相談窓口を設けて対処しています。

【内部通報制度】

<https://www.toray.co.jp/sustainability/activity/compliance/culture.html>

#### 4. トレーニング

東レグループでは、「倫理・コンプライアンス行動規範」や「企業倫理・法令遵守ヘルプライン」などをまとめ、国内・海外関係会社を含めた東レグループのすべての役員・社員に周知徹底を図っています。また、東レ株式会社および国内関係会社においては、2024 年度は、役員・社員向けの人権啓発パンフレットの配布、各社での人権研修会の開催、「倫理・コンプライアンス行動規範」および東レグループの内部通報制度の理解促進に関する e ラーニングの実施などを通じて、他者の尊厳を尊重する職場風土の醸成などに努めました。海外関係会社に対しても、教材を提供し、各国・地域の事情に合わせた啓発・教育を推進しました。

東レ株式会社の購買・物流部門では、実務担当者を対象に、購買・物流業務において遵守すべき法令・税制など、CSR 調達に関連する教育や勉強会を定期的実施し、担当者の意識向上とレベルアップを図っています。国内外の関係会社に対しては、CSR 調達の必要性や求められる活動、リスク事例などをまとめた社内教育資料を配付するなど、継続的な意識浸透活動を行っています。2024 年度には、サプライヤーを対象としたコンプライアンスに関連する説明会や、物流会社を対象とした物流基本方針説明会を開催し、「東レグループ CSR 調達行動指針」の説明や教育を実施しました。また、海外関係会社ではアジアの繊維製品加工外注先に対して人権に関する教育を実施しています。

## 5. モニタリングと評価

東レグループでは、CSR 調達アンケートについては、独自のアンケート調査システムを用いて、サプライヤーにおける CSR への取り組み状況の定期的なモニタリング、グループ全体での統一的な基準による評価、サプライヤーへの評価のフィードバックと低評価企業へのフォローアップなどのデューデリジェンスプロセスの構築によってサプライヤーの意識向上を図るとともに、サプライチェーン上での CSR に関するリスクを効率的・効果的に把握・予防・低減しています。これらの取り組みを通じて、当社が求める水準を満たすサプライヤーについては、CSR 調達パートナーとして認定しています。2022 年度に実施した CSR 調達アンケートで、求める水準に達していなかったために実態調査と改善要請を行ったサプライヤーのうち、80%（5 社のうち 4 社）が、2024 年度の調査で改善されていることを確認しました。

低評価企業へのフォローアップにおいては、改善の取り組み姿勢が見られず、CSR 調達アンケートにおいて低評価の継続や、重大な違反に対して是正措置が講じられないなど、当社が求める水準を満たさない場合には、取引の継続を見直すことがあります。併せて、「東レグループサプライチェーン CSR 推進ガイドブック」を作成し、サプライヤーへの教育資料として、CSR 調達アンケートのフィードバック時などに定期的に配布しています。このガイドブックは、CSR 推進・強化を目的としたサプライヤー向けの教育・支援プログラムの一環として活用されています。

「CSR ロードマップ 2025」において、サプライチェーンデューデリジェンスの実施率を KPI として設定し、取り組みを推進しています。そのため、国・地域・業種などの観点から重要な CSR 調達リスク項目および調査が必要な対象サプライヤーを洗い出し、リスクの有無に関する調査や監査・対策を行うプロセスを確立しました。2024 年度は海外関係会社 80 社の主要サプライヤー 2,220 社のうち、人権・労働、安全・衛生、環境保全の 3 課題において国・地域や業種などの観点からリスクの高いサプライヤー 3 社を抽出し、評価を行いました。その結果、2 社についてはリスクが低いと判断しました。残る 1 社については、リスクが認められた場合、監査およびフォローを実施することで、東レグループ全体の CSR 調達リスクの低減に努めていきます（2024 年度目標 60%以上、実施率 66.7%）。2025 年度には 90%以上の実施率を目標としています。

## 6. 今後に向けて

東レグループは、「倫理・コンプライアンス行動規範」「東レグループ人権方針」「CSR ガイドライン」および「東レグループ CSR 調達方針」に則り、東レグループおよびサプライチェーン全体における奴隷労働・人身売買の防止を含む人権推進に

引き続き取り組んでいきます。役員・社員に対する人権研修や、サプライヤーに対するアンケート調査・CSR への取り組みの要請などを通じて、人権意識の啓発・向上にも努めていきます。

本声明は、2025 年 9 月 26 日の取締役会の承認を得ています。

2025 年 9 月 30 日

東レ株式会社 代表取締役社長

大矢 光雄